

寂しさをなくすこと

——中山間地域の活性化を

「さみしさ」から捉え直す

本シンポジウムでは、「さみしさ」を一つの定義に定めることはしません。「さみしさって何だろう？」という問いから、それぞれの専門分野や経験から、色々なさみしさへの向き合い方などをみんなで議論する場です。

<プログラム>

- 13:00-13:15 趣旨説明
- 13:20-13:50 「縮充社会の到来と中山間地域の沈静化」
作野 広和 教授（島根大学・人文地理学）
- 13:55-14:25 「研究者が地域に住み、
住民と交流することで見えてくるもの」
権藤 恭之 教授（大阪大学・老年学）
- 14:25-14:40 15分休憩
- 14:45-15:15 「痛みと苦悩から言葉をつむぐ
サイレントアイヌとオートエスノグラフィー」
石原 真衣 客員研究員
（北海道大学 アイヌ・先住民研究センター）
- 15:20-15:50 「2004年新潟県中越地震からの集落<復興>
～小千谷市塩谷集落の場合」 渥美 公秀 教授
（大阪大学・災害ボランティア学）
- 15:50-16:00 10分休憩
- 16:00-16:55 パネルディスカッション
<ファシリテーター>
村上 靖彦 教授（大阪大学・現象学）
- 16:55-17:00 閉会の挨拶

他学部学生歓迎
教職員歓迎
出入り自由

2026年
2月27日(金)
13:00-
17:00

大阪大学
人間科学研究科
51講義室
(キャノピーホール)

参加費無料



事前申込用
QRコード

主催 次世代挑戦的研究者育成プロジェクト 「超高齢化時代における山間部の活性化とは
～文明論、行動学、共生学と建築学の学際融合連携による地域サロンプロジェクト再構築の試み～」

共催

哲学即実験 未来共創センター
OPEN=LAB

Project
IMPACT

災害ボランティアラボ

援原病研究会

記憶の継承を祈念するグローバル・ダイアログ

復興まちづくりラボ-野田村

尊厳ある縮退同好会